

桂 紹隆教授 略歴

生年月日 昭和一九年一月九日生

学 歴

昭和四一年三月 京都大学文学部哲学科仏教学専攻卒業

昭和四三年三月 京都大学大学院文学研究科修士課程仏教学専攻修了

昭和四三年四月 京都大学大学院文学研究科博士課程進学

(同年九月休学、昭和四六年八月退学)

昭和四三年九月～昭和四九年六月 トロント大学大学院博士課程留学

職歴及び研究歴

昭和四三年七月～昭和四七年 六月 トロント大学東アジア学科インストラクター

昭和四七年七月～昭和四九年 六月 トロント大学サンスクリット・インド学科専任講師

昭和五〇年四月～昭和五一年 八月 京都産業大学教養部専任講師

昭和五一年九月～昭和五三年一月 一月 広島大学文学部専任講師

昭和五三年一月～平成元年 三月 広島大学文学部助教

昭和五四年九月～昭和五五年 七月 オックスフォード大学東洋研究所留学

平成 元年四月～平成一六年 三月 広島大学文学部教授（退職時に名誉教授）
平成一六年四月～平成二四年 三月 龍谷大学文学部教授

非常勤講師出講歴

ミシガン大学（昭和五二年）、カリフォルニア大学バークレー校（昭和六〇年、平成一三年）、ウィーン大学（平成四年、平成五年）、オックスフォード大学（平成五年）、カルガリ大学（平成八年）、ハンブルク大学（平成一五年）

京都大学（昭和五〇年、五一年、平成元年）、四天王寺女子大学（昭和五〇年）、長崎大学（昭和五四年）、名古屋大学（昭和六二年）、大谷大学（昭和六二年、六三年、平成一四年、一五年）、東京大学（平成五年）、大阪大学（平成六年）、岡山大学（平成六年）、種智院大学（平成六年）、北海道大学（平成一三年）、龍谷大学（平成一五年）

学位

昭和四九年十一月 トロント大学 Ph.D.
昭和六二年三月 京都大学 文学博士

所属学会

日本印度学仏教学会、国際仏教学会、日本仏教学会、パリ学仏教文化学会、日本西蔵学会、インド思想史学会、
東方学会、広島哲学会、日本宗教学会 ほか

褒 賞

昭和五二年 日本印度学仏教学会賞

平成二二年 中村元東方学術賞

社会的活動

平成一七年四月 公益法人国際仏教文化協会理事

平成一八年四月 平成二三年一〇月 日本学術会議連携会員

平成二二年四月 財団法人仏教伝道協会理事

桂紹隆博士 主要業績目録

A 著書

- 1 A Study of Harivarman's Tattvasiddhi, トロント大学PhD 昭和四九年
- 2 『インド人の論理学』中央公論社 平成一〇年
- 3 How did the Buddhists prove something? — The Nature of Buddhist Logic —, The Numata Ehan Lecture in Buddhism 1996, カルガリ大学 平成一二年

B 編著書

- 1 Dharmakīrti's Thought and Its Impact on Indian and Tibetan Philosophy, Proceedings of the Third International Dharmakīrti Conference, Hiroshima, November 4-6, 1997, ホーストリア 科学アカデミー出版局、ウィーン 平成一一年

2 E. Steinkeher 共編 'The Role of the Example (dṛṣṭānta) in Classical Indian Logic, ウィーン大学 平成一六年

- 3 シリーズ大乘仏教第9巻 『認識論と論理学』春秋社 平成二四年一月

- 4 シリーズ大乘仏教第7巻 『唯識と瑜伽行』春秋社 全290頁 平成二四年八月

C 共訳書

- 1 長尾雅人・丹治昭義共訳 『法華経II』中央公論社 昭和五一年

- 2 桂宥子共訳、サターティッサ著『ブッダの生涯』立風書房
昭和五九年
- 3 梶山雄一・丹治昭義・田村智淳共訳『さとりにへの遍歴(上)・(下)』中央公論社
平成 六年
- D 学術論文
- 1 「ダルマキールティにおける「自己認識」の理論」、『南都仏教』第23号
昭和四四年
- 2 「R. A. Miller on Classical Tibetan」、『インド学報』第1号
昭和五〇年
- 3 「New Sanskrit Fragments of the *Pratītiśāstramuccaya*」, *Journal of Indian Philosophy*,
Vol. 3-1-2,
昭和五〇年
- 4 「Savālabhanajāna に ついて」、『印度学仏教学研究』第24巻第1号
昭和五〇年
- 5 「唯識学派の实在論批判」、『東洋学術研究』第15巻第1号
昭和五一年
- 6 「On *Abhidharmakośa* VI.4」, 『インド学報』第2号
昭和五一年
- 7 「A Synopsis of the *Prajñāpāramitopadeśa* of Ratnakarasānti」, 『印度学仏教学研究』第25巻第1号
昭和五一年
- 8 「因明正理門論研究 [一]」, 『広島大学文学部紀要』第37号
昭和五二年
- 9 「Harivarman on *Sarvasūtrāda*」, 『印度学仏教学研究』第26巻第2号
昭和五三年
- 10 「因明正理門論研究 [二]」, 『広島大学文学部紀要』第38号
昭和五三年
- 11 「Harivarman on *Satyadvaya*」, 『印度学仏教学研究』第27巻第2号
昭和五四年
- 12 「因明正理門論研究 [三]」, 『広島大学文学部紀要』第39号
昭和五四年
- 13 「The *Apoḥa* Theory of *Dignāga*」, 『印度学仏教学研究』第28巻第1号
昭和五四年

- 14 「ヴァイシエーシカ学派の推理論に対するディグナーガの批判」、『哲学』第33号
昭和五六年
- 15 「因明正理門論研究〔四〕」、『広島大学文学部紀要』第41号
昭和五六年
- 16 「ラトナーカラシャーンティ再考」、『印度学仏教学研究』第30号第1号
昭和五六年
- 17 「因明正理門論研究〔五〕」、『広島大学文学部紀要』第42号
昭和五七年
- 18 「Kumarilaの推理論—Dignagaとの対比—」、『印度学仏教学研究』第31卷第1号
昭和五七年
- 19 「ダルマキールティの因果論」、『南都仏教』第50号
昭和五八年
- 20 「ダルマキールティの『他相続の存在論証』—和訳と論証—」、『広島大学文学部紀要』第43号
昭和五八年
- 21 「Dignaga on *trairūpya*」、『印度学仏教学研究』第32卷第1号
昭和五八年
- 22 「ディグナーガの認識論と論理学」、梶山雄一編『講座大乘仏教』第9巻、春秋社
昭和五九年
- 23 「Dharmakīrti's Theory of Truth」、*Journal of Indian Philosophy*, Vol. 12-3.
昭和五九年
- 24 「因明正理門論研究〔六〕」、『広島大学文学部紀要』第44号
昭和五九年
- 25 「仏教哲学入門」、『思想の科学』第68号
昭和六〇年
- 26 「On *Trairūpya* Formulae」、雲井昭善博士古希記念論文集…『仏教と異宗教』、平樂寺書店
昭和六〇年
- 27 「インド論理学における遍充概念の生成と発展—チャラカ・サンヒターからダルマキールティ—」、
『広島大学文学部紀要』第45号特輯号
昭和六一年
- 28 「Jñānaśrīmitra on *Apoḥa*」、B.K. Matilal and R.D. Evans (eds.), *Buddhist Logic and Epistemology* (Studies of Classical India 7), D. Reidel Publishing Company.
昭和六一年
- 29 「On the Origin and Development of the concept of *vyāpiti* in Indian Logic」、『哲学』第38号
昭和六一年

- 30 『Sabbhāvaṃpratibandha Revisited』、『印度学仏教学研究』第35巻第1号 昭和六一年
- 31 「因明正理門論研究〔七〕」、『広島大学文学部紀要』第46号 昭和六二年
- 32 『古典キハット語動詞構造の研究』、『科学研究費報告書』 昭和六二年
- 33 書評“M. Tachikawa, *The Structure of the World in Udayana's Realism, A Study of the Lakṣaṇāvali and the Kiraṇāvali*”, *Indo-Iranian Journal* Vol. 30, 昭和六二年
- 34 「論理学派」, 梶山雄一編, 岩波講座東洋思想第8巻『インド仏教1』 昭和六二年
- 35 「ジュニャーナシュリミトラのアポーハ論」, 『仏教学セミナー』第48号 昭和六二年
- 36 「概念—アポーハ論を中心に」, 梶山雄一編, 岩波講座東洋思想第10巻『インド仏教3』 平成元年
- 37 「知覚判断・擬似知覚・世俗知」, 藤田宏達博士還暦記念論集『インド哲学と仏教』, 平楽寺書店 平成元年
- 38 ‘Dignāga and Dharmakīrti on Apoha’, Ernst STEINKELLNER (ed.), *Studies in the Buddhist epistemological tradition, Proceedings of the Second International Dharmakīrti Conference*, June 11-16, 1989, オーストリア科学アカデミー出版局, ウィーン 平成三年
- 39 ‘*Pratīyāyārtika* IV.202-206—*Sabbhāvaṃpratibandha* reconsidered—’, 『印度学仏教学研究』第40巻第2号 平成四年
- 40 ‘Dignāga and Dharmakīrti on *adarsanamātra* and *anupalabhi*’, *Asiatische Studien* XLVI-1 (Festschrift for Prof. Jaques May), 平成四年
- 41 ‘Tetralemma (*catuṣkoṭi*) explained by Venn diagrams’, 渡辺文磨博士追悼記念論集『原始仏教と大乘仏教』, 永田文昌堂 平成四年
- 42 ‘On Perceptual Judgement’, *Festschrift Warder: Studies on Buddhism: in honour of Prof. A. K.*

- Warder, Toronto.
- 43 「カルナカゴーン作『量評釈第1章復注』和訳研究(1)」、『広島大学文学部紀要』第54号 平成 四年
- 44 「華嚴經入法界品における誓願」、『日本仏教学会年報』第60号 平成 六年
- 45 「カルナカゴーン作『量評釈第1章復注』和訳研究(2)」、『広島大学文学部紀要』第56号 平成 八年
- 46 「Nāgārjuna and Pratīyasamutpāda」、『印度学仏教学研究』第46巻第1号 平成 九年
- 47 「Resurgence of the Mundane in Nāgārjuna's Philosophy」、『日本仏教学会年報』第63号 平成一〇年
- 48 「Indian Tradition of Debate」、T. Suzuki (ed.), *The Proceedings of the First Tokyo International Conference of Argumentation*, 平成一二年
- 49 「Dignāga on *trairūpya* Reconsidered」、戸崎宏正博士古希記念論文集『インドの文化と論理』九州大学出版会 平成一二年
- 50 「Nāgārjuna and the Tetralemma (*Caturkoṭi*)」、Jonathan Silk, ed., *Wisdom Compassion, and the Search for Understanding. The Buddhist Studies Legacy of Gadjin M. Nagao*, University of Hawaii Press, ホノルル 平成一二年
- 51 「Nāgārjuna and the Trilemma or *traiakāśiddhi*」、*Studia Indologica* Vol.7, On the understanding of Other Cultures, Proceedings of the International Conference on Sanskrit and Related Studies to Commemorate the centenary of the Birth of Stanislaw Schayer (1899-1941), ed. by P. Balcerowicz & M. Mejer, 平成一二年
- 52 「オウム真理教は仏教か—インド仏教研究に関する方法的反省—」、『日本仏教学会年報』第66号 平成一三年

- 53 「ヴァスバンドウの刹那滅論証」、櫻部建博士喜寿記念論集『初期仏教からアヒタルマへ』、平楽寺書店
平成一四年
- 54 “Beweisverfahren der Buddhisten: Das Wesen buddhistischer Logik”, Horin 9,
平成一四年
- 55 「ディグナーカ論理学における pakṣa, sapakṣa, asapakṣa の意味」、『印度哲学仏教学』第18号
平成一四年
- 56 「存在とは何か—ダルマキールティの視点」、龍谷大学仏教文化研究所紀要』第41集
平成一四年
- 57 「インド仏教における論証の伝統」、広島大学大学院文学研究科 比較論理学プロジェクト研究
センター平成一五年度研究成果報告』
平成一五年
- 58 「ダルマキールティの認識手段—二種論・モノラタナンティンの解説」、神子上恵生教授頌寿記念
論集『インド思想仏教思想論集』永田文昌堂
平成一五年
- 59 “Some Cases of Doctrinal Proofs in the Abhidharmakośa-bhāṣya”, Journal of Indian Philosophy,
Vol. 31, 1-3,
平成一五年
- 60 “The Role of dṛṣṭanta in Dignāga’s Logic”, S. Katsura & E. Steinkeiner, (eds.), *The Role of
the Example (dṛṣṭanta) in Classical Indian Logic*, (Wiener Studien zur Tibetologie und
Buddhismuskunde No. 58), ヴァーン
平成一六年
- 61 “pakṣa, sapakṣa and asapakṣa in Dignāga’s logic”, *Horin* 11,
平成一六年
- 62 “The reductio ad absurdum Argument in India with special reference to Nāgārjuna and Dignāga”,
『龍谷大学論集』第46号,
平成一七年
- 63 「華嚴經入法界品における佛伝の意味」、『禅学研究』特別号 小林円照博士記念論文集
平成一七年
- 64 「袴谷・松本両氏の仏教理解に対する若干の異議申し立て」、『駒沢短期大学仏教論集』第11号
平成一七年

- 65 「ダルマキールティ論理学における術語svabhāvaについて」、長崎法潤博士古稀記念論文集
『仏教とジャイナ教』 平成一七年
- 66 「インド人は如何にして他人を説得するのか」、大橋良介他編『学問の小径』 平成一八年
- 67 Mark Siderits 共著「Mūlamadhyamakakārika 1-10」、『インド学チベット学研究』第9・10号 平成一八年
- 68 「仏教におけるへ場所への概念―袴谷憲昭氏へのレスポンス―」、『龍谷大学論集』第47号 平成一八年
- 69 “Dharmakīrti’s Proof of the Existence of Other Minds”, B. Kellner, H. Krasser, H. Lasic, M. T. Much, H. Tauscher (eds.), *Pramāṇakīrti, Papers dedicated to Ernst Steinkellner on the occasion of his 70th birthday*, Part 1/2. (Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 70.1/2) ウィーン 平成一八年
- 70 「『カーヴィヤータルシャ』チベット注釈者の梵語理解」、『印度学仏教学研究』第57巻第1号 平成二〇年
- 71 Mark Siderits 共著「Mūlamadhyamakakārika 11-21」、『インド学チベット学研究』第12号 平成二〇年
- 72 “Rediscovering Dignāga through Jinendrabuddhi”, Ernst Steinkellner, Duan Qing, Helmut Krasser (eds.), *Sanskrit manuscripts in China, Proceedings of a panel at the 2008 Beijing Seminar on Tibetan Studies, October 13 to 17*, 北京 平成二二年
- 73 “Mūlamadhyamakakārika 22-27”, Mark Siderits & Shoryu Katsura, *Journal of Indian and Tibetan Studies*, Vol. 14, pp. 216-258. 平成二二年
- 74 “A Report on the Study of Sanskrit Manuscript of the *Pramāṇasamuccayaṭīkā* Chapter 3”, *Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 59, No. 3, pp. 163-170. 平成二三年
- 75 “From Abhidharma to Dharmakīrti ---- With a special reference to the concept of svabhāva”, 平成二三年

- Helmut Krasser et al. ed., *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis, Proceedings of the Fourth International Dharmakṛti Conference, Vienna, August 23-27, 2005*, Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, Wien, pp. 271-279. 平成二三年
- 76 "Apoha Theory as an Approach to Understanding Human Cognition", Sideris, Tillemans & Chakrabarti, ed., *Apoha, Buddhist Nominalism and Human Cognition*, Columbia University Press, N.Y., pp. 125-133. 平成二三年
- 77 「インドにおける討論の伝統とその形式的発展」、マルティン・レップ／井上善幸編『問答と論争の仏教 宗教的コミュニケーションの射程』法蔵館 平成二三年
- 78 龍谷ミュージアム編『釈尊と親鸞』第二章第一節「釈尊の思想」、第三章第二節「大乘仏教」、法蔵館 平成二三年
- 79 「インド仏教思想史における大乘仏教―無と有との対話」、シリーズ大乘仏教第1巻『大乘仏教とは何か』春秋社 平成二三年
- 80 「仏教論理学の構造とその意義」、シリーズ大乘仏教第9巻『認識論と論理学』春秋社 平成二四年
- 81 「唯識と瑜伽行」シリーズ講座大乘仏教第7巻『唯識と瑜伽行』春秋社 平成二四年